

獣医臨床における「イペットS[®]」の効果

中川 耕介¹⁾ 藤田 道郎¹⁾ 弥吉 直子¹⁾ 谷口 明子²⁾
長谷川 大輔¹⁾ 織間 博光¹⁾ 大川 博³⁾ 畠中 平八⁴⁾

- 1) 日本獣医生命科学大学 2) ヤマザキ動物看護短期大学
3) (株)スケアクロウ 4) (株)タヒボジャパン

「イペットS[®]」とは



タヒボ原末含有



直径5mm、高さ3mmの丸薬 1錠 150mg

ノウゼンカズラ科のタベブイア・アベラネダエの7mm程度の内部樹皮

タヒボの作用

- ・発癌プロモーション阻害作用 (in vitro)

(Ueda,S , et al , Phytochemistry 36; 323-325 , 1994)

- ・腫瘍細胞への直接（アポトーシス誘導）作用と血管新生抑制作用に加えて正常末梢リンパ球にはそれらの両作用は見られず (in vitro)

(海老名ら, Biotherapy 12 , 495-500 , 1998)

- ・貪食機能を有する好中球、マクロファージの抗酸化作用を低下させ、リンパ球の細胞性免疫機能を亢進させる働きがあり、両作用により疾病の治療を早める可能性あり

(in vivo)

(津曲ら , 小動物臨床 26 : 375-380 , 2007)

タヒボの使用経験

- ・各開業動物病院での使用例についての報告（83症例）
（第30回動物臨床医学会年次大会 2009）

術後または化学療法休薬後にイペットSのみを服用した群：13頭
⇒再発、再燃（－）：10頭（76.9%）

積極的治療を一切行わずイペットSのみを服用
または一定期間併用後に単独で服用した群：4頭
⇒腫瘍の消失あるいは縮小：2頭（50%）

問題点

- 術後または化学療法休薬後にイペットSのみを服用した群
⇒投与タイミングや他の薬剤との併用の有無が不明瞭
- 積極的治療を一切行わず、イペットSのみを服用した群
⇒症例数が少ない


本研究の目的

イペットSを単独服用してもらい、
投与タイミングなどを考慮しつつ

嗜好性、抗腫瘍効果、QOLの改善、転移の有無を調査し、
有用な健康補助食品であるか検討する

供試試料および供試動物

○供試試料

「イペットS[®]」(タヒボ原末含有) 

体重5kg未満	1錠
5~10kg未満	2錠
10~20kg未満	4錠
20~30kg未満	6錠
30kg以上	8錠

○供試動物

15頭 (犬11頭、猫4頭) で評価

	犬 (11頭)	猫 (4頭)
年齢 (平均値) (中央値)	9-16歳 13.2歳 13歳	3-13歳 9.8歳 13歳
体重 (平均値) (中央値)	2.8-33.0kg 15.8kg 11.7kg	2.5-4.6kg 3.8kg 3.9kg

組織学的または
臨床的に

悪性腫瘍: 13頭
不明: 2頭

検討項目と検討方法

検討項目

嗜好性

QOL

抗腫瘍効果

服用期間中における転移の有無

検討方法

1群：術後あるいは化学療法休薬後にイペットSのみ服用（5頭）

2群：診断後から積極的治療を一切行わず、イペットSのみ服用（7頭）

3群：原疾患に対する化学療法と併用してイペットSを服用（3頭）

結果 1

○嗜好性

全頭とも嫌がることなく服用

結果 2

1群： 術後あるいは化学療法休薬後にイペットSのみを服用： **5頭**
服用期間 66~269日 （平均172日 中央186日）

①抗腫瘍効果

腫瘍の再発および新たな発生は見られず経過良好： **5頭**
腫瘍の再発または新たな発生： 0頭

②服用期間中における転移の有無

無し： **5頭**
有り： 0頭

③QOLの評価

改善： **4頭**
安定： 1頭
悪化： 0頭

* 1群において
5頭中1頭が下痢

結果 3

2群： 診断後から積極的治療を一切行わず、イペットSのみを服用した
群： **7頭**

服用期間 60~262日（平均153日 中央168日）

①抗腫瘍効果

明らかに消失または縮小：**1頭**
変化なし： 1頭
増大： 5頭

②服用期間中における転移の有無

無し：**4頭**
有り： 3頭

③QOLの評価

改善：**5頭**
安定： 1頭
悪化： 1頭

結果 4

3群：原疾患に対する化学療法と併用してイペットSを服用した群：3頭
服用期間 33~573日（平均213日 中央73日）

①抗腫瘍効果

明らかに消失または縮小： 0頭
変化なし： 1頭
増大： 2頭

②服用期間中における転移の有無

無し： 2頭
有り： 1頭

③QOLの評価


改善： 1頭
安定： 1頭
悪化： 1頭

考察 1

○嗜好性

全頭とも服用  嗜好性の問題なし

○副作用

1頭のみ下痢  服用を一時的に減量すると症状は改善
元の投与量に戻しても問題なかったため
副作用は強くない

考察 2

○抗腫瘍効果およびQOL

1群：術後あるいは化学療法と併用してイペットSを服用した群

3群：原疾患に対する化学療法と併用してイペットSを服用した群

 イペットSの効果の判断が困難

結果 5

イペットS単独服用群： **11頭**（今回の**7頭**と昨年の**4頭**）

①抗腫瘍効果

明らかな消失または縮小：**3頭 (27.3%)**
変化なし：1頭
増大：7頭

CR (完全寛解) :1頭
PR (部分寛解) :1頭
臨床徴候改善 :1頭

②服用期間中における転移の有無（昨年の4頭は不明）

無し：**4頭 (36.4%)**
有り：3頭

③QOLの評価

改善：**8頭 (72.7%)**
安定：1頭
悪化：2頭

考察 3

○単独服用群における抗腫瘍効果およびQOL

- ・抗腫瘍効果が期待できる (11頭中3頭 [**27.3%**])
- ・高いQOLの改善率 (11頭中8頭 [**72.7%**])

今後の課題

単独服用群の症例数を増やし、
さらに腫瘍ごとの評価および臨床ステージ別の評価が必要

ご協力いただいた動物病院一覧

こうとく動物病院
エルム動物クリニック
森動物病院
瀬田犬猫病院
やすだ動物病院
芝動物病院
百合が丘動物病院
ななお動物病院
そぶえ動物病院
アーク動物病院

深謝致します